

教 授 要 目

付 研究指導要項

昭 和 4 3 年 度



小 樽 商 科 大 学



# 小樽商科大学教授要目

昭和43年度の開講科目は次のとおりである。

目次	
I 授業科目履修方法	1
1 昭和43年度開講科目	1
2 履修方法	5
II 教授要目	13
1 一般教育科目	13
2 外国語科目	18
3 保健体育科目	23
4 基礎教育科目	25
5 専門教育科目	26
6 教職科目	48
III 研究指導要項	53



# I 授業科目履修方法

1. 昭和43年度の開講科目は次のとおりである。

区分	授業科目	単位	年度	担当教官	備考	
一般 教育 科目	人文学	4	II	川村教授		
	心理学	4	I	増山助教授		
	歴史学	4	II	阿部助教授		
	文学	日本文学	4	I	細谷助教授	
		外国(英)文学	4	I	飛田助教授	
		外国(中)文学	4	II	川上教授	
	社会科学	※社会科学概論	2	I・II	未定	
		社会学	4	II	笹森講師	北海道大学文学部助教授
		社会思想史	4	I	未定	
		法学(日本国憲法2) 学(単位を含む)	4	I	中川助教授	
自然科学	物理学	4	I	原田助教授		
	自然科学概論	4	II	原田助教授		
	化学	4	I	斎藤教授		
	生物学	4	II	向川講師	北海道大学理学部助手	
外国語科目	英語 {I/II}	4	I/II	(備考参照)		
	独語 {I/II}	8	{I/II}	{小野講師 菅原講師}	北海道大学文学部助教授	
	仏語 {I/II}	8	{I/II}	目黒助教授		
	中国語 {I/II}	8	{I/II}	川上教授		
	露語 {I/II}	8	{I/II}	松本助教授		
保健 体育 科目	実技 {I/II}	2×2/3 2×1/3	I II	{杉山助教授 藤江助教授 中川講師}	小樽商業高等学校教諭 (前期) {前期後半担当 前期前半担当	
	講義	2	II	{杉山助教授 常見講師}		



基礎教育目	経済学概論	4	I	藤井教授	
	商学概論	4	I	{伊藤教授 石河教授	
	管理科学概論	4	I	古瀬教授	
	数学	4	I	武隈教授	
専門共通教育目	統計学	4	II	竹内教授	
	数理統計学	4	III・IV	武隈教授	
	経済統計学	2	III・IV	竹内教授	(後期)
	経済原論	4	II	藤井教授	
	経済変動論	4	IV	長谷部講師	北海道大学経済学部助教授
	経済学特殊問題	4	II・III	降旗講師	(前期)北海道大学経済学部助教授
	計量経済学	4	IV	松田助教授	
	経済史概論	4	II	井上講師	
	経済政策	4	III	麻田教授	
	財政学	4	III	早見助教授	
	国際経済論	4	III	麻田教授	
	金融経済論	4	III	漆崎助教授	
	専門共通教育目	マーケティング	4	II	岡本講師
商業英語		4	III	木曾講師	小樽女子短大教授
※交通論		2	III・IV	未定	
保険論		4	IV	田村講師	
証券市場論		4	III	石原助教授	
証券金融論		4	IV	鈴木助教授	
※企業分析		2	III・IV	未定	
経営学総論		4	II	伊藤教授	
産業心理学		4	III・IV	増山助教授	
簿記学		4	II	{久野助教授 河野助教授	
簿記演習		4	III	未定	
会計学		4	III	石河教授	
管理会計		4	IV	河野助教授	
専門共通教育目	管理科学(経済I)	2	III	西川教授	(後期)
	管理科学(経済II)	2	IV	西川教授	(前期)

専門共通教育目	管理科学(生産I)	2	III	古瀬教授	(後期)	
	管理科学(生産II)	2	IV	古瀬教授	(前期)	
	事務機械化	6	II	藤田助教授		
	応用数学(代数II)	2	III	沼田助教授	(前期)	
	応用数学(代数)	6	II	沼田助教授		
	応用数学(解析II)	2	III	穂鷹助教授	(前期)	
	応用数学(解析)	6	II	穂鷹助教授		
	応用数学(統計I)	6	III	神田助教授	(前期)	
	応用数学(統計II)	6	III	神田助教授	(後期)	
	応用数学特講 I	3	II	沼田助教授	(前期)	
	応用数学特講 II	3	II	沼田助教授	(後期)	
	数値計算	4	III	戸島助教授		
	数値解析	4	IV	戸島助教授	(前期)	
	計算機論 I	6	II	清水川講師		
	専門共通教育目	※憲法	2	II	未定	
民法 I		4	II	相原講師	小樽商大短大教授	
労働法		4	III	加藤助教授		
商法 I		4	III	実方学長		
商法 II		4	IV	斎藤講師		
国際法		4	IV	桑原教授		
研究指導		12	III・IV	専門科目担当教官		
経済の学び		経済学史	4	III・IV	石垣講師	(前期)北海道大学経済学部教授
		日本経済史	4	III	安孫子教授	
		工業経済学	4	III・IV	吉武教授	
	社会政策	4	IV	吉武教授		
商の学び	商品学	4	III・IV	斎藤教授		
	工場経営	4	III	篠崎助教授		
教職に関する	教育原理	3	III・IV	田中教授		
	教育心理学	4	II~IV	三宅講師	北海道大学教育学部助教授	
	商業科教育法	3	III・IV	渡辺講師	札幌大学経済学部講師	
	英語科教育法	3	III・IV	脇田教授		



教 科 目	専 門 科 目	教 育 実 習	2	Ⅲ・Ⅳ	{石河教授 脇田教授		
		教 育 史	4	Ⅱ			田中教授
	専 門 に 関 する 科 目	商 業	職 業 指 導	4	Ⅲ	石井講師	北海道教育大学札幌分校 校助教授
		英 語	英 語 (上級Ⅲ)	4	Ⅲ・Ⅳ	山本講師	小樽商大短大教授
			英 語 (上級Ⅳ)	4	Ⅲ・Ⅳ	ランダ教師	北海道大学文学部助教授
英 語 学 Ⅱ	4	Ⅲ・Ⅳ	岡野講師				
英 文 学 Ⅱ	4	Ⅰ	飛田助教授				

### 備 考

- (1) ※印は、集中講義の科目を示す。
- (2) 英語Ⅰ・Ⅱの担当教官は次のとおりである。  
脇田教授、飛田助教授、武本助教授、永原講師、島村講師、ランダ外国人教師、フィッシャー外国人講師
- (3) 英語(上級Ⅲ)(上級Ⅳ)、英語学Ⅱおよび英文学Ⅱは高等学校英語二級普通免許状取得のための必修科目であると共に、一般学生の課外科目としての履修参加も認められる。また、英文学Ⅱは一般教育科目の外国(英)文学とに分かれているが同じ講義であり、履修生の希望によりどちらか一方の単位となる。
- (4) 表中、専門教育科目欄における「経済学科のみ」欄の科目は、商業学科を希望する学生が履修しても卒業所要単位には算入されない。  
(ただし、履修は本人の自由である。)同様に「商業学科のみ」欄の科目は、経済学科を希望する学生が履修しても卒業所要単位には算入されない。

## 2 履 修 方 法

学生は4年間在学し、次の事項に示された単位を修得することによって卒業資格が与えられる。

### (1) 単位修得要領

各自が所属しようとする学科の単位一覧表が別表としてA表からK表に分かれて掲げられているから、それぞれの表と1の昭和43年度開講科目とで本年度の履修科目を検討し、履修届を提出しなければならない。

なお、表中の単位数は最低所要の単位数を示したものであるから履修の検討には十分な注意を必要とする。

- (2) A表からE表までは昭和42年度以降入学者に適用されるものであり、それぞれ学科別に分かれているから学科所属を決めた場合にはそれぞれの表が適用される。
- (3) F表は昭和42年度以降入学者で商業教員養成課程以外の学科に所属しようとする学生で高等学校商業二級普通免許状の取得を希望する学生はこのF表の単位をも修得しなければならない。
- (4) G表は昭和42年度以降入学者で高等学校英語二級普通免許状の取得を希望する学生はこのG表の単位をも修得しなければならない。
- (5) H表は昭和41年度以前入学者(昭和41年度入学者で管理科学科に属する者を除く。)に適用し、I表は昭和40・41年度入学者で管理科学科に所属する学生に適用する。
- (6) J表は昭和41年度以前入学者で、商業教員養成課程(教職課程)の履修を条件とした入学者と、この課程以外の学生で高等学校商業二級普通免許状の取得を希望する学生はこのJ表の単位をも修得しなければならない。  
(注) 教職課程の学生はこのJ表の単位を修得することが卒業のための要件となっている。
- (7) K表は昭和41年度以前入学者で高等学校英語二級普通免許状の取得を希望する学生はこのK表の単位をも修得しなければならない。
- (8) 文学の単位は日本文学、外国文学のうち、いずれか1科目だけが卒業のための所要単位数に算入される。



(9) 昭和42年度以降入学者の英語(I・II・III)は1年次毎週4時間4単位, 2年次毎週4時間4単位, 3年次毎週2時間2単位, 合計10単位が必修となる。昭和41年度以前入学者の英語(I・II)は1年次毎週7時間7単位, 2年次毎週6時間6単位, 計13単位が必修となる。(ただし, 昭和39年度以前入学者は従前どおり12単位である。)

(10) 英語以外の外国語(独・仏・中・露語)は, いずれか1カ国語を選択必修とし, 1年次毎週4時間4単位, 2年次毎週4時間4単位, 計8単位を履修しなければならない。ただし, 昭和41年度以前入学者の西語(II)の履修については特別な措置が講ぜられる。

(11) 保健体育科目の実技2単位については昭和42年度以降入学者は1年次毎週2時間2単位の $\frac{2}{3}$ , 2年次隔週に2時間2単位の $\frac{1}{3}$ , 計2単位が必修となる。

(12) 研究指導は毎週3時間3年次から2カ年継続授業で12単位(卒業論文を含む)を履修しなければならない。この12単位は昭和42年度以降入学者にあたってはそれぞれ所属する学科で履修しなければならない専門教育科目80単位の中に含まれている。昭和41年度以前入学者にあたっては履修しなければならない専門教育科目にそれぞれ含まれている。ただし, 教員養成課程にあつては他の学科の研究指導を履修しなければならない。

研究指導を履修しない学生は研究指導12単位分を所属する学科の専門教育科目の履修によって充足しなければならない。教員養成課程の学生にあつては他の学科の科目によって充足しなければならない。

昭和42年度以降入学者で管理科学科に所属しようとする学生の研究指導12単位は必修である。昭和40・41年度入学者で管理科学に所属しようとする学生は4年次において8単位が必修となる。

A表 経済学科(昭和42年度以降入学者対象)

区分	科目数等	単位数	必修とする科目
一般教育科目	人文科学系	3科目	12
	社会科学系	2科目	8
	自然科学系	2科目	8
	計	7科目	28
外国語科目	英語(I・II・III)を含め2カ国語	18	英語(I・II・III) 英語以外の外国語のうち1科目
保健体育科目	2科目	4	実技, 講義
基礎教育科目	4科目	16	経済学概論, 商学概論 管理科学概論, 数学
専門教育科目		80	統計学, 経済原論, 経済史概論, 経営学総論, 会计学, 民法I, 商法I
卒業所要単位数(計)		146	
備考 専門教育科目のうち選択科目の単位修得方法については学則第14条別表第2「(2)イ, 経済学科」による。			

B表 商業学科(昭和42年度以降入学者対象)

区分	科目数等	単位数	必修とする科目
一般教育科目	人文科学系	3科目	12
	社会科学系	2科目	8
	自然科学系	2科目	8
	計	7科目	28
外国語科目	英語(I・II・III)を含め2カ国語	18	英語(I・II・III) 英語以外の外国語のうち1科目
保健体育科目	2科目	4	実技, 講義
基礎教育科目	4科目	16	経済学概論, 商学概論 管理科学概論, 数学
専門教育科目		80	マーケティング, 経営学総論, 労務管理, 簿記学, 会计学, 統計学, 経済原論, 民法I, 商法I
卒業所要単位数(計)		146	
備考 専門教育科目のうち選択科目の単位修得方法については学則第14条別表第2「(2)ロ, 商業学科」による。			



C表 管理科学科〔管理科学コース〕（昭和42年度以降入学者対象）

区 分	科目数等	単位数	必修とする科目
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12
	社会科学系	2 科目	8
	自然科学系	2 科目	8
	計	7 科目	28
外国語科目	英語(I・II・III)を含め2カ国語	18	英語(I・II・III) 英語以外の外国語のうち1科目
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義
基礎教育科目	4 科目	16	経済学概論, 商学概論 管理科学概論, 数学
専門教育科目		80	研究指導(管理科学科研究指導Iまたは管理科学科研究指導II) 統計学, 経済原論
卒業所要単位数(計)		146	
備考 専門教育科目のうち選択科目の単位修得方法については学則第14条別表第2「(2)ハ, 管理科学科〔管理科学コース〕」による。			

D表 管理科学科〔機械化会計コース〕（昭和42年度以降入学者対象）

区 分	科目数等	単位数	必修とする科目
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12
	社会科学系	2 科目	8
	自然科学系	2 科目	8
	計	7 科目	28
外国語科目	英語(I・II・III)を含め2カ国語	18	英語(I・II・III) 英語以外の外国語のうち1科目
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義
基礎教育科目	4 科目	16	経済学概論, 商学概論 管理科学概論, 数学
専門教育科目		80	研究指導(機械化会計研究指導) 統計学, 経済原論, 簿記学, 会計学
卒業所要単位数(計)		146	
備考 専門教育科目のうち選択科目の単位修得方法については学則第14条別表第2「(2)ハ, 管理科学科〔機械化会計コース〕」による。			

E表 商業教員養成課程（昭和42年度以降入学者対象）

区 分	科目数等	単位数	必修とする科目	
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12	
	社会科学系	3 科目	12	経済学概論, 法学(日本国憲法2単位を含む)
	自然科学系	3 科目	12	数学
	計	9 科目	36	
外国語科目	英語(I・II・III)を含め2カ国語	18	英語(I・II・III) 英語以外の外国語のうち1科目	
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義	
基礎教育科目	2 科目	8	商学概論, 管理科学概論	
専門教育科目		60	統計学, 経済原論, 経営学総論, 簿記学, 会計学, 民法I, 商法I	
教職科目	6 科目	20	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育実習, 教育史, 職業指導	
卒業所要単位数(計)		146		
備考 専門教育科目のうち必修科目以外の科目の履修は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法律関係科目の全科目から履修することができる。				

F表 商業科教員免許資格取得希望者（昭和42年度以降入学者対象）

区 分	単位数	履 修 科 目 (必修)
一般教育科目 (社会科学)		法学(日本国憲法2単位を含む)
教職に関する 専門科目	16	教育原理4単位, 教育心理学4単位, 商業科教育法2単位, 教育実習2単位, 教育史4単位
教科に関する 専門科目	4	職業指導
合 計	20	
備考 この表は商業教員養成課程以外の学科に所属する学生に適用するもので, それぞれの学科の卒業所要単位数のほかに上記の単位数を修得しなければならない。		



G表 英語科教員免許資格取得希望者（昭和42年度以降入学者対象）

区分	単位数	必修科目	選科目
一般教育科目 (社会科学系)		法学(日本国憲法2) 単位を含む)	
外国語科目	32	英語(上級Ⅰ)(上級Ⅲ) 12 " (上級Ⅱ)(上級Ⅳ) 単位 英語学Ⅰ英文学Ⅰ 16 " Ⅱ " Ⅱ 単位	商業英語 4 単位
教職に関する 専門科目	17	教育原理4単位,教育心理学 4単位,英語科教育法3単位, 教育実習2単位,教育史4単位	
合計	49		
備考	1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位数のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし,商業教員養成課程の学生は,外国語科目の単位数と教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。 2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は,F表,G表双表の場合に併用できる。		

H表 経済学科および商業学科（昭和41年度以前入学者対象）

系列	科目数等	単位数	必修とする科目	
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12	
	社会科学系	3 科目	12	経済学概論, 商学概論
	自然科学系	3 科目	12	数学
	計	9 科目	36	
外国語科目	英語(Ⅰ・Ⅱ)を 含め2カ国語	21 (20)	英語(Ⅰ・Ⅱ)を含め2カ国語	
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義	
専門教育科目		84	統計学, 経済原論, 経済史概論, 経営学総論, 簿記学, 会計学, 民法Ⅰ, 商法Ⅰ	
卒業所要単位数(計)		145 (144)		
備考 単位数(20)(144)は,昭和39年度以前の入学者のみ適用する。				

I表 管理科学科（昭和40・41年度入学者対象）

区分	科目数等	単位数	必修とする科目	
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12	
	社会科学系	3 科目	12	経済学概論
	自然科学系	3 科目	12	数学
	計	9 科目	36	
外国語科目	英語(Ⅰ・Ⅱ)を 含め2カ国語	21	英語(Ⅰ・Ⅱ)を含め2カ国語	
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義	
専門教育科目		102	管理科学概論, ▲応用数学(代数Ⅰ)応用数学(代数Ⅱ)・▲応用数学(解析Ⅰ)・応用数学(解析Ⅱ)・応用数学(統計Ⅰ)・応用数学(統計Ⅱ), 統計学, 経済原論, 計量経済学, 簿記学, 研究指導  「管理科学(生産Ⅰ)・管理科学(生産Ⅱ)」▲管理科学(販売Ⅰ)「▲管理科学(販売Ⅱ)」 「管理科学(経済Ⅰ)・管理科学(経済Ⅱ)」上記3科目群のうち, いずれか2科目群  「計算機プログラム, 数値計算・数値解析」, 「▲機械化会計・事務機械化・▲情報処理」上記2科目群のうち, いずれか1科目群	
卒業所要単位数(計)		163		
備考 専門教育科目における必修とする科目の欄のうち, 科目群とは「」内に掲げられた一連の授業科目をいい, その指定するところにより選択した「」内の科目は, そのすべてを必修とする。 ▲印の科目については本年度開講しない。				



J表 商業教員養成課程および商業科教員免許資格取得希望者

(昭和41年度以前入学者対象)

系 列	単位数	必 修 科 目	選 択 科 目
一般教育科目 (社会科学系)		法学 (日本国憲法 2単位を含む)	
教職に関する 専門科目	14	教育原理 3単位 教育心理 3" 商業科教育法 3" 教育実習 2"	▲教育社会学 3単位 教育史 3" ▲教育統計 3"
教科に関する 専門科目	4	職 業 指 導	
合 計	18		
備考 それぞれ所属する学科の卒業所要単位数のほかに上記単位数を修得しなければならない。▲印の科目については、本年度開講しない。			

K表 英語科教員免許資格取得希望者 (昭和41年度以前入学者対象)

系 列	単位数	必 修 科 目	選 択 科 目
一般教育科目 (社会科学系)		法学 (日本国憲法 2単位を含む)	
外国語科目	24	英語 (上級Ⅰ) " (上級Ⅱ) " (上級Ⅲ) " (上級Ⅳ) } 12単位 英語学Ⅰ } "Ⅱ } 12単位 英文学Ⅰ } "Ⅱ }	
教職に関する 専門科目	14	教育原理 3単位 教育心理 3" 英語科教育法 3" 教育実習 2"	▲教育社会学 3単位 教育史 3" ▲教育統計 3"
合 計	38		
備考 それぞれ所属する学科の卒業所要単位数のほかに上記単位数を修得しなければならない。但し、商業教員養成課程の学生は外国語科目の単位数と英語科教育法を修得すればよい。▲印は、本年度開講しない。			

## II 教授要目

### 1 一般教育科目

#### 哲 学

教授 川村三千雄

##### I 哲学の意味と本質

- (イ) 哲学の理論的意味  
哲学的真理, 常識と真理, 科学と哲学, 哲学的真理と科学的真理
- (ロ) 哲学の実践的意味  
伝統と哲学, 宗教と哲学, 人生と哲学

##### II 哲学と人間

- (イ) 哲学と主体性  
驚異, 懐疑, 不安, 実存的問題
- (ロ) 愛知と哲学, 無知と哲学

##### III 哲学と思想 (哲学と歴史的世界)

- (イ) 古代と哲学的思想
- (ロ) 中世と哲学的思想
- (ハ) 近世と哲学的思想
- (ニ) 現代と哲学的思想

#### 心 理 学

助教授 増山英太郎

心理学的考え方の習得を目標とし、そのために心理学全体の内容を出来るだけ体系的に、筋道を追って説明してゆきたい。教科書は下記のものに指定するが、体系的説明の都合上、必ずしも教科書に完全に準拠しては講義をすすめない。

高木貞二編 心理学 (新版) 東京大学出版 円320



## 歴史学

助教授 阿部 謹也

### (A) 長期的目標

私達の現実認識・世界認識を深めてゆくための作業の一部として、ヨーロッパ世界像の検討をおこなうこと。具体的には、(1)明治維新以来の近代歴史学の「西洋文明とは何か」という問題設定（文明史家達）から、最近の歴史学における「世界史の基本法則」、「世界史像の形成」という問題設定への変化が、それぞれ、国内のどのような要請にこたえて生まれてきたものか、を明らかにし、それらへの理解と批判をふまえて現在の日本における「ヨーロッパ史研究」の社会的意味を探ること。(2)同時に、現代ヨーロッパの研究者によるヨーロッパ像構成の2, 3の問題点を、(1)を発展させた論旨のなかで明らかにしたい。

### (B) 本年度は

ヨーロッパにおける都市の成立・変貌を国家論の問題として、特に絶対王政との関連において論ずる予定である。その際、特に *Bürgertum Bourgeoisie* 市民、国民といった概念を歴史的に明確化してゆきたい。わが国は近代化論、あるいは市民社会論との関係において、これらの概念が曖昧のままに用いられているからである。

参考書はそのつど示すが、一応マックス・ウエーバー・都市の類型学（人文社）、羽仁五郎・都市、岩波新書に目を通しておくこと。

## 日本文学

助教授 細谷 直樹

芭蕉俳諧の研究資料として最も重要な「去来抄」を取りあげて、蕉風の俳論の特質がどのような点にあるかを明らかにし、又その特質が日本芸術史の流れの中で、どのようにして形成されたかを考えようと思う。

教科書、頼原退蔵校訂「去来抄・三冊子・旅寝論」（岩波文庫）

## 英文学

助教授 飛田 茂雄

昨年度にひきつづき、王政回復時代から1830年ころまでのイギリス文学全般の歴史を、社会史的背景と関連づけながら講義し、主要な作品を鑑賞する。

Milton, Dryden, Pope らの詩、小説の誕生、擬古典主義とローマン主義の二大文学思潮などが主要な論題であるが、特に Burns, Blake, Gothic novels などローマン主義胎動期に重点をおく。（明年度は1830年以後の英文学、明後年度はふたたび中世から市民革命時代までの英文学を講じる。3年度生はなるべく今年受講のこと。）

テキスト: William Henry Hudson, *Representative Passages from English Literature* (London, 1923). [翻刻版], 金星堂。480円。

## 中国文学

教授 川上 久寿

政治とのかかわりあいを中心とした中国文学史を古代に薄く現代に厚く概観する。とくに魯迅の評論に焦点をおく。

## ※社会科学概論

未定

## 社会学

非常勤講師 笹森 秀雄  
(北海道大学文学部助教授)

## 社会思想史

未定

## 法学

助教授 中川 良延

私たちの生活は、さまざまな形で、法による規制をうけている。そのような法としては、憲法を中心として、民法、商法、労働法、刑法等々と、数えきれないほど、多種多様な法がある。これらの法は、全体として、どのような論理的構造をなしているのか、また、これらの法は、社会や経済の発展とどのような関連をもっているのか、そしてとりわけ重要なことは、法とは一体私たちにとってどんな意味をもっているのか。講義は、下記の教科書を使い、裁判所の判決等を挙げながら進めて行くが、その場合にも、つねに上に指摘した基本的な問題を追求する、という姿勢をとって行きたい。

教科書: 渡辺洋三編「法の常識」 有斐閣



## 物理学

助教授 原田 稔

現代物理学の戦略（自然に対する基本的姿勢）に重点をおいて、その基本的戦術（概念及び理論）を解説する。教科書は定めないが次に掲げるものを参考になろう：

玉木英彦・板倉聖宣著「現代物理等の基礎」（東大出版会）

アインシュタイン・インフェルト著「物理学はいかにして創られたか」  
・下（岩波新書）

## 自然科学概論

助教授 原田 稔

「科学の正体」ということを、主に物理学的側面からみた場合について考えて行きたい。

テキスト：

湯川秀樹・梅棹忠夫著「人間にとって科学とはなにか」（中央公論社）

参考書：

武谷三男編著「自然科学概論」第2巻（勁草書房）

## 化学

教授 斎藤 要

化学は元来一つの教育体系を持っておるが、それは化学、またはその応用を専攻する学生に対して都合よくできている。この体系を希釈したり、あるいは一部を拡大して非専門の学生に教授するのであるが、本年度は化学の発展史をたどりながら、基礎化学の分野としては元素を中心とする物質観とが関連法則を系統的に述べ、また応用化学の分野としては技術革新に対応する石油化学の一端と、その問題点などに重点をおいて、講義する予定である。

## 生物学

非常勤講師 向川 信一  
（北海道大学理学部助手）

生物は常に歴史的な産物であり、極めて巧妙な機構のもとにその生命を維持、発展させ又しつつあるものと考えられる。人類はこの生命現象の諸相に

ついて多くの知見を積み重ね、生物学的法則ともいふべき原則の確立に努力を続けてきた。吾々も又生物の一員であり、生物学の明らかにした多くの側面が直接的にあるいは間接的に吾々に重要な影響をもたらしつつあるのも事実である。更に生命の認識や発生・発展の過程に関する諸問題について今もなお鋭い思想的対立があり、吾々の人生観や世界観に多くの問題を提供しているのも自明である。

生物学の分野によっては日進月歩の感を深くする昨今の状態であるが、生物の示す多様な生命現象の姿を、生命の起源の問題から、主に生殖、発生、遺伝などの問題について、定説を中心に講義をすすめる予定である。特に教科書は定めない。



## 2. 外国語科目

### 英語 I

(A)は講読を中心とする, (B)は口頭練習を中心とする。

#### ▶Aクラス

(A) 助教授 飛田 茂雄

(B) 外人教師 マーク・ランダ

(A) Christopher Isherwood, Goodbye to Berlin (研究社)220円

(B) Vernon Brown, Speak English, Book I (明隣堂) 250円。

#### ▶Bクラス

(A) 助教授 武本 昌二

(B) 外人教師 マーク・ランダ

(A) G.E. Bigelow, The Building of the Nation (成美堂) 180円。

(B) Vernon Brown, Speak English, Book I (明隣堂) 250円。

#### ▶Cクラス

(A) 教授 脇田 勇

(B) 非常勤講師 ドナルド・W・フィッシャー

(A) William S. Maugham, Mackintosh and The Round  
Dozen (英宝社) 260円。

(B) Vernon Brown, Speak English, Book I (明隣堂) 250円。

▶Dクラス→Bクラスと同じ。

#### ▶Eクラス

(A) 講師 永原 和夫

(B) 外人教師 マーク・ランダ

(A) Bertrand Russell, Selected Essays (山口書店) 100円。

Bertrand Russell, Is Happiness Still Possible and Other  
Essays (南雲堂) 140円。

(B) Vernon Brown, Speak English, Book I (明隣堂) 250円。

#### ▶Fクラス

(A) 講師 島村 東太郎

(B) 非常勤講師 ドナルド・W・フィッシャー

(A) James Hilton, Good-bye, Mr. Chips (研究社) 220円。

(B) Vernon Brown, Speak English, Book I (明隣堂) 250円。

### 英語 II

(R<sub>1</sub>)は精読, (R<sub>2</sub>)は多読を主眼とする。

#### ▶Aクラス

(R<sub>1</sub>) 教授 脇田 勇

(R<sub>2</sub>) 講師 永原 和夫

(R<sub>1</sub>) William S. Maugham, The Moon and Sixpence

(金星堂) 350円。

(R<sub>2</sub>) V. Woolf: The Waves (Penguin Books)

大沢実 注解 ¥470円。

#### ▶Bクラス

(R<sub>1</sub>) 教授 脇田 勇

(R<sub>2</sub>) 助教授 武本 昌三

(R<sub>1</sub>) William S. Maugham, The Moon and Sixpence

(金星堂) 350円。

(R<sub>2</sub>) Stories by O. Henry (Prentice-Hall International,  
Inc.) 400円。

#### ▶Cクラス

(R<sub>1</sub>) 講師 島村 東太郎

(R<sub>2</sub>) 助教授 飛田 茂雄

(R<sub>1</sub>) John Galsworthy, Indian Summer of a Forsyte

(研究社) 190円。

(R<sub>2</sub>) Ernest Hemingway, A Farewell to Arms

(英潮社 ペンギンブックス) 540円。



▶Dクラス

- (R<sub>1</sub>) 助教授 飛田 茂雄  
 (R<sub>2</sub>) 講師 永原 和夫  
 (R<sub>1</sub>) Erich Fromm, *The Art of Loving* (松柏社) 250円。  
 (R<sub>2</sub>) V. Woolf: *The Waves*, (Penguin Books)  
 大沢 実 注解 ¥470円。

▶Eクラス

- (R<sub>1</sub>) 講師 永原 和夫  
 (R<sub>2</sub>) 講師 島村 東太郎  
 (R<sub>1</sub>) Aldous Huxley, *Proper Studies* (松柏社) 250円。  
 (R<sub>2</sub>) R. L. Stevenson, *Will o' the Mill and Markheim*  
 (成美堂) 160円。

▶Fクラス

- (R<sub>1</sub>) 講師 島村 東太郎  
 (R<sub>2</sub>) 助教授 武本 昌三  
 (R<sub>1</sub>) John Galsworthy, *Indian Summer of a Forsyte*  
 (研究社) 190円。  
 (R<sub>2</sub>) *Stories by O. Henry* (Prentice-Hall International, Inc.) 400円。

独 語 I・II Aクラス 非常勤講師 菅原 隆一  
(北海道大学文学助教授)

<使用テキスト>

- 一年目  
 登張・小栗基本ドイツ文法 (同学社 340円)  
 二年目  
 長くつ下のピッピ (文林書院 260円)

独 語 I・II Bクラス 講師 小野 光代

仏 語 I・II

めぐるしもん  
助教授 目黒 士門

- フランス語 I 文法・講読・発音練習・会話などを総合的に行ない、基礎的  
 学力を身につけることを目的とする。  
 用書 目黒士門編「フランス語・読本と会話」(白水社)  
 文法書 目黒ほか著「新フランス広文典」(白水社)  
 辞書 1. 「新仏和中辞典」(白水社)  
 2. 「スタンダード仏和辞典」(大修館)  
 3. 「コンサイス仏和辞典」(三省堂)  
 以上3種の辞典のうち、いずれか1部を必ず購入すること。  
 フランス語 II 週2回の授業のうち1回は講読、他の1回は文法と作文を行  
 ない、もって読解力と表現力の完成を期する。  
 用書 1. 三宅ほか編「アンドレ・モロワ：愛する術」  
 (文林書院)  
 2. 秋山晴夫編「中級フランス文法」(第三書房)

中 国 語 I

教授 川上 久寿

北京放送テキスト 中国語講座課本, 陳文彬編校閲 香坂順一改編増補,  
光生館

中 国 語 II

教授 川上 久寿

現代中国語読本 上巻 北京語言学院編 光生館



## 露 語 I・II

助教授 松 本 忠 司

### テキスト

1年 入門ロシア語文法 (白水社)

基礎ロシア語読本 (白水社)

2年 ロシア・ソビエト短編集 (プリント)

ゴーリキイ, 評論 ( " )

時 事 評 論 ( " )

辞 典 岩波露和辞典 コンサイス和露辞典

## 3. 保健体育科目

### 体育実技 I・II

助教授 杉 山 登

助教授 藤 江 正

非常勤講師 中 川 平 悟  
(小樽商業高等学校教諭)

#### 1 必須実技種目

(1) 水 泳 実技内容としては、簡易泳法、自由型、平泳、背泳、横泳、潜水泳、逆跳込み、立泳、救助法 (人工呼吸法も含む) であり、目標とするところは泳力をつけることにあり、初級者は一泳法で100米点泳を目標としたい。この実習を通して指導法、管理法に関する知的な面の修得をもはかる。

(2) スキー 内容としては、直滑降、斜滑降系技術、プルーク系技術、シュテム・クリスチャニア、パラレル・クリスチャニア、ウェデルン等について実習する。指導の段階においては、初級、中級、上級の三段階に分け初級班では一年次でプルーク・ボーゲン、二年次でシュテム・クリスチャニア、中級班では一年次においてシュテム・クリスチャニア、二年次でパラレル・クリスチャニア、上級班は一年次でウェデルン、二年次でポール技術、深雪の技術を目標としている。

#### 実技時期

水 泳 6月から7月にかけて一年次で4週間 (8時間) 二年次で3週間 (6時間) 実施するが、詳しい日時は掲示等により通知する。

スキー 1月から2月にかけて一年次で4週間 (8時間) 二年次で3週間 (6時間) 実施する。

#### 2 選択実技種目

バスケット・ボール、バレー・ボール、羽球、卓球、ソフト・ボール、軟式野球の6種目であるが、選択種目に関しては4月~6月、9月~12月の2期間中において、各期間毎に異った種目を一種目自由選択し履修する



ものとする。なお人員等の関係から選択種目の変更をさせることもありうる。

### 3 体力・運動能力の測定

反復横とび、50米走（敏捷性）、垂直とび、走り巾とび（瞬発力）、背筋力、握力（筋力）、踏み台昇降運動、1500米走（耐久性）、伏臥上体そらし、立位体前屈（柔軟性）、バランス（平衡性）の測定の外に、若干の測定種目を加えて、5月と11月に2回実施し、これらのどの分野の能力に優れ或いは劣っているかを把握し、それに応じた自己の体力増進方法を考え実践させるよう努める。

### 体育講義

（前期 前半）非常勤講師 常見 郁 雄  
（小樽協会病院内科医長）  
（前期 後半）助 教 授 杉 山 登

## 4. 基礎教育科目

### 経済学概論

教授 藤 井 栄 一

下記のテキストを使用して、経済学の概要を理解することを目的にする。聴講者は、英語または日本語訳の何れかを購入すること。

Samuelson, *Economics*, 6th or 7th edition (リプリント版もある: International Student Edition)

サムエルソン（都留重人ほか訳）『経済学，上・下』

なお、講義は、かなりの程度まで、上記のテキストの内容に沿ってすすめるけれども、とくに制度の説明や事情の記述についてはテキストに重点をおかない。

### 商学概論

前期 教授 伊 藤 森右衛門

後期 教授 石 河 英 夫

### 管理科学概論

教授 古 瀬 大 六

### 数 学

教授 武 隈 良 一

微分積分学の講義を行なう。

教科書 吉田洋一著 微分積分学 改訂版（培風館） ¥ 750円。



## 5. 専門教育科目

### 統計学

教授 竹内 清

#### 1. 講義内容

統計学の歴史をまず概観した上で、記述統計学および推測統計学の基本を通し、経済学をはじめとする社会科学の諸問題への応用力を高めることを主眼とする。

今年度は、記述統計学においては回帰分析にかなりの重点をおくが、できるだけ推測統計学の分野に時間をかけることにする。確率論、統計的推定論、統計的仮説検定論、統計的決定理論、実験計画法、品質管理、標本調査の基本は一応講述する予定である。

なお、最後に時系列分析の問題を考察する。

参考文献は適宜紹介する予定であるが、教室内での小さな試験の如きものも随時適当に行なうことにする（42年度は7回実施）。

#### 2. 使用テキスト

森田優三編「現代経済学演習講座・統計学」青林書院新社。昭和40年

### 数理統計学

教授 武隈 良一

経済学科および商業学科の学生のための数理統計学を講義する。したがって数学を主とすることなく、実際の応用に主力をおく。数学の不得意な学生でも、数理統計学に関心をもつ者であれば受講にさしつかえない。この科目は管理学科が設置されない当時（今から5、6年前）隔年に講義されたものである。3年目および4年目の学生であれば誰でも聴講してさしつかえない。

教科書 成実清松・坂井忠次共著 数理統計学要説

増訂版（培風館） ¥ 550円。

### 経済統計学

後期 教授 竹内 清

#### 1. 講義内容

- (I) ロシアにおける家計調査の歴史
- (II) 革命後のソ連における家計調査
  - (a) 労働者・事務員世帯の家計調査
  - (b) 農家の家計調査
- (III) 資本主義国における家計調査
- (IV) ソ連における消費分析

#### 2. 参考文献

- (I) И. Я. МАТЮХА, СТАТИСТИКА БЮДЖЕТОВ НАСЕЛЕНИЯ, 1967
- (II) А. И. ЕЖОВ, СТАТИСТИКА И МЕТОДОЛОГИЯ ПОКАЗАТЕЛЕЙ СОВЕТСКОЙ СТАТИСТИКИ, 1965
- (III) ВЫБОРОЧНОЕ НАБЛЮДЕНИЕ В СТАТИСТИКЕ СССР, ПОД РЕД. А. Я. БОЯРСКОГО, В. В. ДЖАПАРИДЗЕ, В. Е. ОВСИЕНКО, М. Р. ЭЙДЕЛЬМАНА, 1966
- (IV) A. Yezhov, Organisation of Statistics in the U. S. S. R., 1967

その他雑誌論文を含めて、いくつかのソ連の文献を利用するが、ロシア語の知識は必ずしも必要としない。

### 経済原論

教授 藤井 栄一

#### 講義内容

- I 価値論（需要・供給・均衡）
- II 分配論（生産要素の需要・供給・均衡）



- Ⅲ 国民所得（価格水準・利子率・所得決定）
- Ⅳ 経済成長（新古典派およびケインズ派成長理論）
- Ⅴ 経済と政治（厚生経済学）

原則として prerequisite はないけれど、「経済学概論」を履修済みでないと、講義をフォローすることが、かなりむずかしいようである。経済学的なものの見方に慣れていることが必要のようである。

教科書は必要でないが、次の文献は、しばしば必要になる。

サムエルソン『経済学』（できるだけ新しい版が望ましい）

スティグラール『価格の理論』

ヒックス『価値と資本』

ケインズ『一般理論』

ドーフマン・サムエルソン・ソロー『線型計画と経済理論』

マーシャル『経済学原理』

A・E・A, *Readings in Price Theory*

A・E・A, *Readings in the Theory of Income Distribution*

A・E・A, *Readings in the Monetary Theory*

Patinkin, *Money, Interest and Prices*

（入門書：Lipsey, *Introduction to Positive Economics*）

アクレイ『マクロ経済学』

### 経済変動論

非常勤講師 長谷部 亮  
（北海道大学経済学部助教授）

使用テキスト

近代経済学講座第4巻、「成長と循環」、有斐閣刊

テキストを中心にしながら、できるだけ日本経済の実証分析に触れていきたい。

### 経済学史(E)

非常勤講師 石垣 博 美  
（北海道大学経済学部教授）

この科目は、経済理論の歴史の変遷を政策との関連で明らかにすることを目的とする。

各時代の政策問題がいかに理論的研究を刺戟したか、また逆に経済理論がいかに政策撰択の問題に応用されたか、を基準にして、政策思想と学説の発展をたどる。

- 1) Introduction
- 2) Mercantilism
- 3) English Classical Thought and Policy  
(Smith, Bentham, Ricardo, Malthus, and the Mills)
- 4) Socialist Thought  
(Ricardian Socialists, Marx)
- 5) Economic Theory and Policy in the later 19th  
Century (Jevons, Marshall, Pigou)
- 6) The Keynesian Revolution
- 7) Conclusion

参考書

- 1) Robbins, L., *The theory of Economic Policy in English Classical Economy.* (Macmillan.)
- 2) Macgregor, D.H., *Economic Thought and Policy.* (H. U. L.)

### 経済学特殊問題

非常勤講師 降旗 節 雄  
前期(北海道大学経済学部助教授)

資本主義経済の原理論を、流通形態論、生産過程論、分配関係論の三つの理論領域にわけてあきらかにする。なお、その序論として、簡単な社会構成史と、資本主義発達史の基本的構造について説明をあたえ、最後に補論として帝国主義論、現代資本主義論、日本金融資本分析についてもふれる。

テキストは降旗『資本論体系の研究』（青木書店刊）

参考文献は、マルクス『資本論』、ヒルファアディング『金融資本論』、レーニン『帝国主義論』。以上の著作はすべて数種の邦訳があるが、どれを用いても可。



計量経済学はひとつの技術の体系である。したがって技術を使用するものはその特性と使用方法に熟達することが要求される。《経済学方法論》によつて《現状分析》にせよかかる分析技術を抜きにしては考えられない。赤ん坊に脳手術の執刀をゆだねることは出来ない。受講者は教条的レッテル貼り狂奔するまえに、論理展開のひとつひとつを追うことを体得する様にわたしと一緒に考えてほしい。

講義は下記の順序で行なう予定である。行列・行列式の初歩演算を知っていることが望ましいので、応用数学Ⅰ・Ⅱを履修するよう心がけられたい。関連科目として経済統計（竹内清教授）が開講されるので、本年計量経済学を受講するものや、明年計量経済学を受講する予定の3年次の学生はかならず聴講することが望ましい。産業連関・線型計画法については詳細に触れられず余裕はないと思われるので、その面に関心のある学生は、管理科学（経済学）を併せて受講することが望ましい。

#### I 実証的経済学というときの《実証性》について。

① 《実証性》ということの論理構造——L. Robins thesis と Friedman thesis

② 19世紀の実証性に対する1890年代の反逆と1930年代の社会科学の理論について——人間行為の合理的説明と合理的人間行為の仮定との関係について。

#### II 経済模型の設定 (Model building)

#### III 単純回帰模型の定式化 (Specification)

#### IV 相互依存体系の定式化

詳細な参考文献は講義の間に配布する。

Beach : *Economic Model*

Klein : *Introduction to Econometrics*

Malinvaud : *Statistical Method of Econometrics.*

(Eng. tr. of *Méthode Statistique de Econometrics*)

英訳は実質改訂第2版ともいえる。線型推定の部分が大巾に手を入れられている。

比較経済史的観点から、戦後わが国における西洋経済史学の達成した理論的成果を論述する。

#### I 課題と方法

#### II 経済発展段階諸説

#### III 封建制から資本主義への移行に関する基礎理論

(1) 封建制の経済的基礎

(2) 資本主義の発達

(3) 封建制から資本主義への移行

#### IV 「固有の重商主義」期の諸問題

#### V 産業革命と資本主義の確立

テキストは特に使用しない。参考文献はそのつど指示するが、さしあたり大塚・高橋・松田編『西洋経済史講座』Ⅰ～Ⅳをあげておく。

### 日本経済史 (E)

教授 安孫子 麟

生産様式の諸段階に関する世界史法則の理解を前提として、日本近代社会成立の特質を明らかにすることを、目標とする。

このため、前資本主義社会の物的基礎としての「共同体」の構造を手がかりに、日本社会の特質を明らかにし、資本主義社会の日本的形態（類型）への連続性を把握する。ついで、「共同体」の止揚にみられる日本資本主義の特殊類型を明らかにし、その再生産構造の型を考察する。

講義は、ほぼつぎの構成をもって行なう

#### I 序論

#### II 近世社会構造論

#### III 封建的危機論

#### IV 明治維新論

#### V 日本資本主義構造論

教科書としては、中村吉治編「日本経済史」山川出版社 680円を使用するが、これだけでは不十分なので、必要に応じ別に指示する。



## 経済政策

教授 麻田 四郎

講義の前半には、経済学説の史的発展における理論と政策のからみ合いを方法論的に展望し、後半において厚生経済学の方法論を批判的に吟味する。講義全体を通じて、理論と政策とを結ぶ連結環としての価値判断の意義を明らかにしたい。

### A 経済学の方法論

- 1 重商主義
- 2 重農主義
- 3 古典学派
- 4 社会主義経済学
- 5 歴史学派

### B 厚生経済学

- 1 旧厚生経済学
- 2 新厚生経済学
- 3 新々厚生経済学

参考文献は講義において適宜紹介する。

## 工業経済学 (E)

教授 吉武 清彦

今年度は『西ヨーロッパ混合経済論』というテーマで講義をこころみたい。これはいわば、現代資本主義論の一環と考えられるものである。

現在のところ、イギリス・フランス・イタリア・西ドイツの諸国を扱う予定であり、それぞれの国における混合経済のあり方や、また経済計画のすめかたなどを講義の主要内容にしたいと考えているが、講義の順序はまだ未定である。

主な参考書は次のごとくである。

A. Shonfield, *Modern Capitalism—The Changing Balance of Public and Private Power* (1965, Oxford). ¥3,300

A. マディソン『西欧の経済成長』(1965年, 紀伊国屋書店) ¥1,800

吉武 清彦『イギリス産業国有化政策論』

(1968年, 4月出版予定, 日本評論社)

その他詳細な文献は講義の都度示す。

## 社会政策 (E)

教授 吉武 清彦

- 第一篇 社会政策史
- 第二篇 社会政策本質論
- 第三篇 社会政策各論

参考書 大河内一男 社会政策 (総論及び各論) 有斐閣  
岸本英太郎 社会政策 (ミネルバ書房) 昭40年  
隅谷三喜男 労働経済論 (日本評論社, 昭40年)

## 財政学

助教授 早見 弘

今年度は以下の編成にしたがって講義する予定である。グラフおよび参考文献は、プリントして配布する。

### I 財政支出の分析

- (1) 経費膨脹の法則
- (2) 財政支出のタイム・パターン

### II 政府活動の理論的基礎

- (1) 完全競争市場と公共財の性質
- (2) 同額消費・外部効果
- (3) 混合経済と所得分配・経済安定

### III 租税構造の変遷

- (1) 明治・大正・昭和の租税収入
- (2) 地租改正
- (3) 所得税の創設
- (4) シャウブ勧告

### IV 財政収入の調達と租税原則

- (1) 租税と公債の選択
- (2) アダム・スミスの租税原則



(3) アドルフ・ワグナーの租税原則

(4) 犠牲説

(5) 社会価値説

#### V 租税制度と租税負担

(1) 所得税の構造

(2) 法人税の構造

(3) 間接税の構造

#### VI 財政政策論

(1) 最近の財政問題—国債発行と国債管理

(2) 財政支出乗数と均衡予算定理

(3) ビルトイン・スタビライザー

### 国際経済論

教授 麻田 四郎

講義は例年の体系を踏襲する。ただし本年は、例年不十分な時間しか割  
なかつた後半に多くの時間を割くべく努力する。

- 1 古典派貿易理論……比較生産費説、国際価値論、交易条件、外国為
- 2 近代的貿易理論……貿易乗数、国内均衡と国際均衡
- 3 戦後国際経済体制の理論と現実… IMF、世界銀行、GATTその
- 4 最近の諸問題……低開発国問題、国際流動性、経済統合、その他

(参考書)

小島 清『外国貿易、学習用テキスト版』昭41、春秋社。

渡辺大郎『新版 国際経済』昭43、春秋社。

藤井茂訳『ハロッド、国際経済学、改訂版』昭33、実業之日本社。

### 金融経済論

助教授 漆 崎 健 治

貨幣と金融の問題を、経済との関連において論ずる。前半においては制  
(論)を中心とし、後半において、理論中心の講義内容としたい。

- 1 金融論序説

2 商業信用と銀行信用

3 貨幣と貨幣制度

4 わが国の金融構造

5 信用創造

6 物価理論

7 利子理論

8 新しい金融理論

9 金融政策とその効果

なお、特定のテキストは用いない。

参考書

樋口午郎 金融論 東洋経済新報社

川口 弘 金融論 筑摩書房

板倉董一 金融の理論と実際 東洋経済新報社

ハート・ケネン 現代金融論 日本評論社

(吉野昌甫、山下邦男訳)

### マーケティング

非常勤講師 岡 本 理 一  
(札幌大学経営学部教授)

### 商品学 (C)

教授 齋 藤 要

商品学は総論と各論に分けられるが、本年度は品質論を中心とした総論の  
大要を述べ、各論については閑説する。

I 商品学の概念と体系

II 商品の分類

1 学の対象とする商品

2 理論的分類体系と実用的分類体系

III 品質論

1 品質と使用価値

2 品質の形成要因

3 品位と評価理論



- 4 品質競争と品質垂離
  - IV 商品の形態（デザインと包装）
  - V 商品の市場適性と商品計画
  - VI 消費者問題
    - 1 消費者運動（消費者教育，消費者組織）
    - 2 消費者行政（消費者保護）
- テキストを使用せず，必要に応じて要綱を印刷したプリントを配布し，  
りを見て商品テストの実験を行なう。

**商業英語** 非常勤講師 木曾栄作  
(本学名誉教授・小樽女子短大学長)

国際貿易の実務的背景知識を与えつつ，貿易実務に用いられる英語の語彙構造の特異性を構述し，下記の内容を中心として，表現応用能力の涵養を眼とする。

1. 商業英語の本質
2. 貿易取引関係の創設
3. 引合から受注まで
4. 貿易契約とその履行
5. 引渡と決済
6. クレームとその解決

テキスト 石田貞夫著 英語貿易通信（篠崎書林 発行）

**保険論**

講師 田村祐一郎

- I 保険の意義
- II 保険の歴史
- III 保険の経営
- V 危険管理論

前半でドイツを中心とする伝統的保険理論の成果を講述し，後半で，第二次大戦後アメリカで展開されている危険管理論を紹介する  
前半部分の参考書

白杉三郎「保険学総論（再訂版）」昭和30年千倉書房  
佐波宣平「保険学講案」昭和33年有斐閣  
大林良一「保険理論」昭和35年春秋社  
印南博吉外「保険経営論」（経営学全集34）昭和36年東洋経済新報社  
後半部分については随時指示する。

**証券市場論**

助教授 石原定和

戦前における証券市場論は，一口でいえば証券取引所論であり，商業学の一部門として，商品・証券の両取引所を含めて体系づけられていた。これは，戦前の財閥が封鎖的な資金の調達方法を用いたため，公開された証券市場では企業の資金調達という機能よりも，むしろ投機取引という商品売買に共通した面だけが利用されていた事実の反映である。

戦後になると，財閥企業も長年の蓄積を失って再出発が必要となったし，財閥解体によって，株式市場は企業の資金調達という本来の機能を果すようになった。

このような事情を反映して，証券市場論も取引所の中だけでなく，一方では企業の資金調達面や他方では金融市場との広い関連の中で取扱われねばならなくなってきた。

本年の講義においては，金融市場の一部としての証券市場を，歴史的・論理的に概説する。その構成は大略，つぎのとおり。

序 証券市場の概論

1. 株式会社における証券の役割  
——資本集中と支配技術の進展と関連させて——
2. 有価証券の本質とその運動  
——擬制資本範疇の成立とその自己運動，投機の役割——
3. 証券市場と金融市場
4. 証券の流通
5. わが国における証券市場発展の歴史と資本蓄積に果たした役割。

なお，特定の教科書は使用しない。参考書については講義中，適宜に紹介し，あわせてその内容と特徴をも説明する。



## 証券金融論

助教授 鈴木 満 直

証券金融を証券の金融的側面として理解し、前半に証券の商業学的側面、すなわち制度を日本の現状に則して解説し、後半に経済学的側面、とくにケインズの貨幣理論およびマネー・フローに力点をおいて講義する。

テキストは使わない。

### 参考書

- 木村増三 証券市場概論 春秋社  
小泉 明 マネー・フロー 至誠堂  
石田定夫 マネーフロー分析 日経文庫

## 経営学総論

教授 伊藤 森右衛門

## 工場経営 (C)

助教授 篠崎 恒 夫

工場経営の歴史的発展と生産管理の体系を中心として工場経営の批判的述を試みたい。特に、人間関係論とシステム論との経営学における位置づを本年度の講義の主要テーマとしたい。

- I 工場経営論の本質と意義
- II 導入的諸概念
- III 工場経営の展開
  - 1 工場経営の確立
  - 2 科学的管理法の展開
  - 3 フォードシステム
  - 4 人間関係論の抬頭
  - 5 オートメーションとシステム概念
  - 6 近代管理学の生成
- IV 工場経営のシステム
  - 1 全体経営と生産管理
  - 2 生産管理の体系と手法
  - 3 生産管理の組織

## V 工場労務の諸問題

- 1 労資関係の展開
- 2 経営参加制度
- 3 賃金管理の近代化

なお、本講義の基礎科学として、経営経済学、経済学特殊問題を履修済みであることが望ましい。参考書は講義中に随時指示する。

## 産業心理学

助教授 増山 英太郎

産業に役立つ心理学を目標とし、そのために在来の産業心理学全体をも一通り説明するが、特に市場調査に用いられる心理学的手法と人間工学に用いられる手法の説明に重点を置いて講義を行なう。従って、講義は多少数学的なものとなろう。又、講義の間に随時演習或いは宿題を折り込む。参考書は、

日科技連官能検査委員会編著：

工業における官能検査ハンドブック

日本科学技術連盟 1,900

## 簿記学

Aクラス 助教授 河野 二男  
Bクラス 助教授 久野 光朗

### (1) クラスの編成

Aクラス 67001~67150

Bクラス 67151~67294, 昭和42年度以前の入学者で単位を取得していない者

### (2) 授業内容

最初の授業時間に授業計画と学習方法を説明し、あわせて参考書の紹介などをいたしますが、授業内容は次のとおりです。

- §1 総論
- §2 貸借理論
- §3 勘定理論
- §4 帳簿組織論
- §5 決算理論



(3) テキスト

沼田嘉穂, 「簿記教科書(記帳練習帳を含む)」(同文館)

(4) 参考書——現在入手可能なものに限定

片野一郎, 「簿記の手ほどき」(同文館)

片野一郎, 「新版簿記精説」(同文館)

井上達雄, 「新版例解会計簿記精義」(白桃書房)

泉谷勝美, 「簿記学概論」(森山書店)

山榊忠恕「複式簿記通論」(中央経済社)

山榊・飯野・染谷共編, 「簿記原理」・「上級簿記」(有斐閣)

黒沢 清, 「改訂簿記原理」(森山書店)

(5) 備考

上記のとおり併行講義であるが, テキストを統一し, かつ, 授業の進行およびテキストなどについても調整をはかるようにする。

簿記演習

未 定

会 計 学

教 授 石 河 英 夫

管 理 会 計

助 教 授 河 野 二 男

管理科学(経済Ⅰ)

後 期 教 授 西 川 欽 也

管理科学の経済理論・経済政策・経済計画への応用を中心に, 講義と輪講を行なう。輪講のテキストとしては

Fox, K. A., Sengupta, J. K., & E. Thorbecke : The Theory of Quantitative Economic Policy, 1966, North-Holland

を予定している。

管理科学(経済Ⅱ)

前 期 教 授 西 川 欽 也

前年度開講の「管理科学(経済Ⅰ)」に引き続き

Fox, K. A., Sengupta, J. K., E. Thorbecke : The Theory of Quantitative Economic Policy, 1966, North-Holland

の輪講を中心に授業を進める。

管理科学(生産Ⅰ)

後 期 教 授 古 瀬 大 六

管理科学(生産Ⅱ)

前 期 教 授 古 瀬 大 六

事務機械化

助 教 授 藤 田 芳 夫

本年度の事務機械化論は以下に示すように会計事務の機械化, あるいは簿記の機械化を中心に講義する。

第一章 電子計算機の出現と事務の機械化

第二章 電子計算機複式簿記—その一, 試算表の廃止

第三章 電子計算機複式簿記—その二, 仕訳帳の廃止

第四章 電子計算機複式簿記—その三, 決算

第五章 電子計算機と行列簿記—勘定内容把握の精密化とORとの結合の可能性

第六章 販売会計の基本的構造

第七章 電子計算機販売会計—電子計算機複式簿記その四, 仕訳の廃止

第八章 簿記の運命と監査の変化

なお, 履修学生の基準年度の二年度生であることを考慮して, 簿記の原理およびフオートランについて講義上, 注意する予定です。また, 演習によって具体的に理解できるように配慮してあります。

参考文献, 随時指摘します。



## 応用数学 (代数Ⅱ)

前期 助教授 沼田 久

前年度の応用数学 (代数Ⅰ) に引き続いて、非負行列、線型計画、ゲームの理論等を講義する。

参考書：二階堂副包 経済のための線型数学 (培風館)

二階堂副包 現代経済学の数学的方法 (岩波書店)

D. Gale The Theory of Linear Economic Models (McGraw-Hill, 1960)

## 応用数学 (代数)

助教授 沼田 久

管理科学のために必要な代数学、すなわち、行列、行列式、ベクトル空間、線型不等式、線型計画等について一応の知識を与えることを目的とする。高等学校的数学の得手不得手とはあまり関係はないが、若干の抽象的思考の能力または根気が必要である。

参考書：古屋 茂 行列と行列式 (培風館)

大学数学教育研究会編 行列とベクトル (共立出版)

佐武一郎 行列と行列式 (裳華房)

二階堂副包 線形のための線型数学 (培風館)

## 応用数学 (解析)

前期 助教授 穂鷹 良介

数理統計学、数理経済学、オペレーションズ・リサーチ等の理解に是非知っておかねばならぬ解析学の基礎知識について講義する。

受講者諸君は皆一年の時に一通りの微分積分学を学ばれたことと思うが、実はあれだけの知識では表面上の解析学の理解はともかくとして、実質的理解は殆んどなされていないといって過言でない。

又、この実質的な (より正確な) 理解をすることがより高度の研究を行う上には絶対必要なのであって、表面だけの事実をなでるようにして解析を済ませようという考えは、この学問については、通用しない。

本講では数百年の歴史をもつエレガントで一点のアイマイもない解析

の基本的な概念を演習を交え、こんせつ、ていねいに述べる。まじめな受講生は数学というものの本当の姿をしり、受験数学に対して持った印象とは全く別の澄み切った理解を数学に対して持つようになるであろう。

使用教科書：田島一郎著 数学解析入門 好学社

## 応用数学 (解析Ⅱ)

前期 助教授 穂鷹 良介

昨年同様、同じ text を使用して講義する。内容はトポロジー (位相) と測度についてである。

使用教科書：河田敬義著 集合・位相・測度

## 応用数学 (統計Ⅰ)

前期 助教授 神田 祐一

## 応用数学 (統計Ⅱ)

後期 助教授 神田 祐一

## 応用数学 特講Ⅰ

前期 助教授 沼田 久

線型計画、ゲームの理論等を講義する予定であるが、詳細は未定。

## 応用数学 特講Ⅱ

後期 助教授 沼田 久

ベクトル空間、凸集合の理論等を講義する予定であるが、詳細は未定。

## 数値計算

助教授 戸島 熙

この講義は前年度に「計算機プログラム」を履修した者、又は、それと同等の知識と能力をもつ者を対象に開講される。従って、受講者は、FORTRAN, ALGOL, COBOL などの compiler 言語による



programming にかなり習熟していなければならない。そのうえ、電子計算機と assembler 言語に関する初歩的な知識が前提される。

さて、講義では、電子計算機 (hardware) の発達に伴って、それに劣らぬくらいに巨大な進歩をみせている programming system (software) の理論と技術に関する系統的な説明を行なう。この分野は50年代の後半に新しく開拓されたものであるが、短い期間に実に驚くべき進歩をなしてきており、現在では、その全貌をうかがうことすらきわめて困難になっている。しかし、そのわりには、まとまった入門書のような形での啓蒙書に乏しく、その知識は、実際に作業に関与した少数の人達とか、内輪の report の形によってしか貯えられていない場合が大部分であり、ましてや、この分野に関して教育を行なうことは（ことに文科系で）それほど普及していることではない。

前年度は、受講者にもっとも簡単な system program のひとつである記号入力 program [1, pp. 121 - 135] の製作を課題にして、software 技術の入門という所期の目的をある程度はたし、効果をあげることができた。

今年度は、これとやや異って「compiler の論理」をテーマにするが、やはり、受講者には実際に program を製作してもらう。

なお、text は使用しないが、[2] を指定図書とする。受講者は一定の期日までに同書の指定された個所をよみ、その内容に関する report の提出を、ひんぱんに求められる。また、[1]、[3] は電子計算機への入門書として適当である。[4] は、やや特殊であるが一読の価値がある。

#### 引用文献

- [1] 赤 撰也・藤川洋一郎, 電子計算機入門 (新数学シリーズ 25), 培風館, 1966.
- [2] Rosen, Saul (ed. by), *Programming Systems and Languages*, McGraw-Hill, 1967.
- [3] 高須 達 (編), 電子計算機のプログラミング, 日刊工業新聞社, 1965.
- [4] 一松 信, 電子計算機と二進法, 日本評論社, 1965.

## 数値解析

前期 助教授 戸 島 熙

この講義は、経済原論、国際経済論、管理科学 (経済 I, 生産 I), 応用数学 (解析, 代数, 統計), 計算機プログラム, 数値計算などを履修した管理科学の4年次生を対象とする。従って、受講者には上記科目の基本的知識があるものと前提して、以下にのべるように、かなり専門的な講義を行なう。

講義の狙いは、これまで受講者が3年間に獲得してきた断片的な知識のある部分を統一的視点から再構成することにある。

講義の具体的内容は「数学的計画法とその応用」である。

いま、 $f, g_i (i=1, \dots, m)$  を  $R^n$  で定義された real valued function,  $x$  を  $R^n$  の vector とするとき

$$\max f(x)$$

subject to

$$g_i(x) \geq 0, (i=1, \dots, m)$$

という最大問題を考える。この問題は、 $\lambda = (\lambda_1, \dots, \lambda_m) \geq 0$  として

$$\phi(x, \lambda) = f(x) + \sum_{i=1}^m \lambda_i g_i(x)$$

という関数  $\phi$  の saddle point, すなわち

$$\phi(x, \bar{\lambda}) \leq \phi(x, \lambda) \leq \phi(x, \bar{\lambda})$$

となる  $x, \bar{\lambda} (\bar{\lambda} \geq 0)$  を求める問題と、ある条件のもとで、同等である

(Kuhn-Tucker の同等性定理。例えば、[1, pp. 252 - 260] をみよ。)

ことを証明することができる。この条件にはいくつかの variant があるが、講義ではそれらのおのおのについて厳密に証明をのべる。

さて、経済学では、うえのような最大問題に定式化できる問題が非常に多い (例えば、予算制約のもとでの効用最大問題などは、かなり familia であろう。) ので、この同等性を利用して、それらを統一的方法によって分析することが可能である。講義の後半では、応用として、そのいくつかの事例に言及する。

さらに、数学的計画法は単なる理論ではなく、実際の計算法もふくんでいる。この点で、数学的計画法と電子計算機のむすびつきが生れる。しかし、未解決の問題もあるので受講者は各自の電子計算機と software 技術についての知識を総動員して、その解決を計かることがのぞまれる。



text は使用しない。〔2〕は計算法の理論と実際についての貴重な邦語文献である。〔3〕は計算例を示している。

#### 引用文献

- 〔1〕二階堂副包, 現代経済学の数学的方法, 岩波書店, 1960.  
〔2〕古瀬大六, 「鞍点問題の微分方程式解法」, 商学討究, 第5巻(1955), 第4号。  
〔3〕戸島 薫, 「Digital Computer による Gradient Method」, 商学討究, 第15巻(1964), 第1号。

### 計算機論 I

講師 清水川 緋紗子

#### 使用テキスト

- 森口繁一著 FÖRTRANIV入門 東京大学出版会  
森口繁一他著 ALGÖLIP入門 東京大学出版会

### ※憲 法

未 定

### 民 法 I

非常勤講師  
(小樽商大短大教授) 相 原 東 孝

### 労 働 法

助教授 加 藤 俊 平

### 商 法 I

学 長 実 方 正 雄

商法は、資本主義社会における資本制企業を対象とする法である。そのうち、商法Iは、商法典中の商法総則および会社法を中心としたものである。講義は、私の商法理論体系にしたがい、資本法としての歴史的機能を有する商法の意義や、資本制企業の法律的構造一般の問題を取扱い(商法総則)ついで、企業形態の法(会社法)ことに会社企業の諸法形態に論及する。この

企業形態法については、現代資本主義社会の中核体たる株式会社を中心とし、とくにその諸法制度のもつ経済的実践的機能を追求して、その持つ歴史的意義を分析したいと思っている。なお、株式会社との比較対照において、合名会社、合資会社、有限会社にも触れながら、わかり易く説明を続けてゆくつもりである。

教科書としては、旧式な筆記の労をはぶくため、私の書いた講義案「再訂商法講義」を使用する。この書物は、講義案たるの性質上、簡明でやや難解であるから、講義では、平易にかみくだいて、ときには重要判例などをとりあげながら、解説するつもりである。したがって、私の教科書を読むだけで、商法の内容や、私の理論や立場を十分に理解することは、きわめて困難であろう、ということに注意しておく。

### 商 法 II

講師 斎 藤 武

まず海上運送を中心に運送法についてのべ、つぎに手形小切手を中心に有価証券法を研究していきます。

- 教科書 鈴木竹雄著 商行為法・保険法・海商法 弘文堂  
石井照久著 手形法・小切手法 弘文堂

### 国 際 法

教授 桑 原 輝 路



## 6. 教職科目

### 教育原理

教授 田中昭徳

- I 近代教育の思想と理念
- II 教育学理論の発展とその系譜
- III 産業と教育
- IV 経済発展と教育計画
  - 1 経済発展と世界の教育改革の動向
  - 2 教育投資論
  - 3 わが国の長期経済計画と教育計画
- V 教育政策と教育制度
- VI 教育課程
- VII わが国の教育行財政機構
- VIII 国家・国民・教育——教育は誰のためのものなのか——

### 教育心理学

非常勤講師 三宅和夫  
(北海道大学教育学部助教授)

◎ テキスト 岡部・沢田編 教育心理学〔新版〕東京大学出版会

#### I 序論

- 教育心理学とはなにか
- 教育心理学の発展
- 教育心理学の対象領域
- 教育心理学の研究手法

#### II 発達

- 発達とはどういうことか
- 発達の諸原理
- 発達の各段階の主要な特徴

#### III 学習

- 学習とはなにか

学習と成熟 レディネス

学習と動機づけ

学習の理論

問題解決の過程

学習の転移

#### IV 人格と適応

人格の定義

人格形成の諸条件

欲求阻止と適応

人格研究の方法

#### V 測定と評価

測定と評価の発展

知能の評価

学力の評価

#### VI 学級社会の心理

集団の構造と機能

子どもの人間関係

教師と子どもの関係

### 商業科教育法

非常勤講師 渡辺羊三  
(札幌大学経済学部講師)

#### I 商業教育の概念

- 1 商業教育の意義の変遷
- 2 商業教育と他の教育
- 3 商業教育の目的およびその内容
- 4 商業教育の目標

#### II 商業教育の沿革

#### III 商業教育と職業指導

#### IV 商業教育の機関

#### V 教育課程

- 1 教育課程の原理と編成



- 2 商業教育課程の変遷と編成
- VI 学習指導法および評価
  - 1 学習指導の意義および類型
  - 2 商業科の学習指導
  - 3 評価の意義とその実際
- VII 商業教育の施設・設備  
商業高等学校の設置基準など。
- VIII 商業教育の今後の問題  
商業教育の多様化など。

### 英語科教育法

- 1. 英語教授法の歴史の変遷
  - A 諸外国
  - B 日本
- 2. 現段階における新教授法の理論と実践
- 3. 文部省指導要領（主として高等学校外国語編）の解説  
以上の項目を骨子に討論を交えつつ講義を行なう。  
参考文献はその都度指示するものとする。

### ※教育実習（商業科）

### ※教育実習（英語科）

### 教育史

- I 明治維新前後の教育状況
- II 「近代」教育の発足
- III 天皇制教育の体制化
- IV 日本資本主義の形成と教育

教授 脇田 勇

教授 石河 英夫

教授 脇田 勇

教授 田中 昭徳

- V 大正デモクラシーと教育
- VI 日本資本主義の危機と教育
- VII 日本ファシズムの教育体制
- VIII 戦後の教育
- IX 現代教育の歴史的課題

### 職業指導

非常勤講師 石井 茂  
(北海道教育大学札幌分校助教授)

講義内容ならびに参考文献などについては、開講の際に指示する。

### 英語（上級Ⅲ）

非常勤講師 山本 幸男  
(小樽商大短大教授)

Text : Shakespeara : Antonyand Cleopatra, Kenkyusha, Tokyo 円. 650

この作品は、シェイクスピアの1606—07年の作といわれている。プルターク英雄伝に材をとり、ローマ帝国三巨頭の一人アントニが、エジプトの女王クレオパトラの色香に迷い放縦な生活にふけていたが、シーザーと対立するにおよび、女王の向背つねなく、戦に敗れてついに自刃する。女王も毒蛇に胸をかませて死ぬ。激しい情熱に燃え、変幻きわみない女王クレオパトラの性格描写にすぐれる、シェイクスピアのローマ史劇の傑作である。

#### 指導要項

- (イ) 最初の4講位は、プリント（シェイクスピアのソネットより抜すい）を使用、シェイクスピアの英語について初歩的な知識をあたえる。
- (ロ) 輪読形式でテキストを読む。
- (ハ) 集注本よりのプリントを適宜利用し、古典を読むさいの注の扱い方について指導する。
- (ニ) 参考書については、適宜指示する。



(Advanced English: Essay Writing)

Graded practice in the basic writing skills that are required to describe, define, inform, instruct and persuade in English. In addition to writing ten multi-paragraph themes, students will read essay models and prepare written exercises outside of class.

Text: J. Ross and G. Doty, Writing English: A Composition Text in English as a Foreign Language. Harper and Row. New York, 1965. 1300 yen.

Also recommended: an English-English dictionary:

Webster's New World Dictionary of English.

Webster's Collegiate Dictionary.

American College Dictionary.

英語学 II

非常勤講師 岡野 哲  
(北海道大学文学部助教授)

(テキスト) James Sledd: A Short Introduction to English Grammar. 352pp ¥750  
(Maruzen Asian Edition)

III 研究指導要項

教授 竹内 清

1 研究主題

統計学及びその関連分野の問題。(統計学, 経済統計学, 数理統計学, OR, 計量経済学等)

2 指導要項

- (イ) 全般 真摯な態度で, 学問研究に取り組むように学生を指導する。
- (ロ) 3年次 Hogg and Craig, Introduction to Mathematical Statistics, 1965 をテキストとして使用。問題を解くことを中心として数理統計学に関する学生の実力が向上することを眼目とする。
- (ハ) 4年次 卒論と関連して, 学生各自は個別テーマについて, 研究発表すること。学生相互のディスカッション等を通して卒論作成の指導に主眼を置く。

3 履修要件

数学が好きで, 相応の能力を発揮できる者が望ましい。

4 使用テキスト

3年次のテキストは上記参照。4年次の卒論作成に当たっては, 原書あるいは外国の雑誌論文を主として参照するようにする。

教授 藤井 栄一

1 研究主題

理論経済学

2 指導要項

- (イ) 全般 講義と報告による。個別テーマの選択は話しあいによって定める。
- (ロ) 3年次 講義と報告により, 基本的な分析手法になれることを目的にする。
- (ハ) 4年次 前半は3年次と同じ。後半は個別テーマの報告と討論



### 3 履修要件

経済学関係の単位を履修済みであることが望ましい。外国語(とくに英語)で経済学の文献をかなり自由に読めなければならない。

### 4 使用テキスト

詳細は別に指示するが、かなり多くの図書を必要とする。

### 5 その他

報告準備のために、十分な時間の余裕が必要である。

## 助教授 松田 芳郎

1. ヨーロッパ近代(1890—1930年代にここでは限定)の経済理論の発展と社会思想の展開を日本のそれとの対比のうえで研究する。(細かな本文批評を行ないながら、発火点となった文献そのものを読みながら考える。

2. 主セミナーとサブセミナーに両方出席し、地味な忍耐力をもって講読に参加し報告することが義務づけられる。

3. 3年次, a)・b)輪読会

A. Marshall: *Principles of Economics* 1890 (Guillebaud's edition)

H. Stuart Hughes: *Consciousness and Society; the reconstructing of European social thought, 1890-1930* 1958

4年次 a) (輪読会)

Firmin Oules (éd.); *L'Ecole de Lausanne; textes choisis des Walras et Pareto*. 1950

b) 個別テーマ

4. 経済学概論・経済原論・統計学の履修済み履修完了予定者。

5. ゼミナール参加希望者は(私が指導出来ないので)スペイン語以外の第1・第2外国語の簡単なテストを受けること。

6. いわゆる《計量経済学》をゼミナールで研究したいものは、応用数学等を履修のうえ、管理科学科の演習(経済)に参加するか経済学科の統計学の演習に参加することが学問研究のあり方として望ましいと思うので本演習には参加させない。本演習は《計量経済学》研究の予備作業である経済理論の初歩的研究作業に留める。

## 講師 井上 巽

### 1 研究主題

西洋経済史。特に19世紀中葉、ビクトリア黄金時代のイギリス資本主義の諸問題に焦点を合わせる。

### 2 指導要項

(イ) 全般 研究書の正確な読み方の修得。自由な意見の交換。

(ロ) 3年次 前半はテキストを用いて一般的かつ総括的な見通しを得ることに力点をおき、後半において具体的な歴史分析に関するわが国および外国の研究論文の検討を行なう。

(ハ) 4年次 卒業論文指導。具体的な点は後に指示する。

### 3 履修条件

経済史概論の履修済者に限る。

### 4 使用テキスト

3年次 バジヨット『ロンバード街』, 宇野訳, 岩波文庫。その他。

4年次 後に指示する。

## 教授 安孫子 麟

### 1 研究主題

歴史理論および日本経済史に関する諸研究。日本経済史と日本経済論の区別は、事実上ないと思う。しかしこのゼミナールでは、日本資本主義発達史の観点からのアプローチに限りたい。また、農業経済学に関連する問題も、同様の観点からのみ取上げる。一般的な農業経済問題は、取扱わない。

### 2 指導要項

(イ) 全般 歴史・経済理論の基礎を理解させるために、テキストの精読に重点をおく。その上で、事実(史料, 統計)をどう扱うかを考え、歴史分析の方法の理解を深める。

(ロ) 3年次, テキストは栗原百寿「農業問題入門」2~4章。これは歴史理論の書である。

(ハ) 4年次, 幕末期の農民層分解, 維新論, 日本資本主義発達史などをテーマに、個別論文を数多くよむ。後半で卒論指導に重点をおく。



### 3 履修要件

経済理論を身につけてきてほしい。経済学特殊問題を履修し、十分に勉強しておかないと、歴史理論は理解できない。単に、歴史が好きだけでなく、経済学を勉強しているということを忘れないように。

### 4 テキスト

上記のとおり。

教授 麻田 四郎

教授 吉武 清彦

#### 1. 研究主題

社会政策, 工業経済学。

#### 2. 指導要項

3年次: 下記テキストをよむ

4年次: 卒論指導

#### 3. 使用テキスト

A. V. Dicey, *Law and Public Opinion in England* (London, 1905), (値段18s. 1000円程度ペーパーバック)

これは国家の経済的機能の増大が代表制民主制に対し与えた影響を19世紀イギリスについて見たものであって、古典的名著である。労働運動史、社会思想史、イギリス政治思想史等に興味ある者に好適。内容的に可成り高度なので、相当努力しないと理解は困難である。

4. 語学関係 (第1, 第2外国語) 及び経済学概論, 経済史概論第2年終了時において履修済みであることを条件とする。

5. 面接の際、英語の実力テストを行なう。

助教授 早見 弘

#### 1. 政府収支過程の経済分析

2. 43年度は、財政の経済理論を学習するに先立って、ミクロ分析から始めることにしている。次の予定は財政に入るつもりである。ゼミの進め方は

予め予習のうえ、当日任意に指令して全般的または部分的に報告を求めるほか、担当個所を割りあてて報告をきくようにもしている。4年次に入ってから、卒論の内容に沿って報告をきく。

3. 過去の3年次生が読み、これから読むことになるテキストは、以下の通りである。

J. E. Meade, *Principles of Political Economy: Stationary Economy* (Unwin). R. A. Musgrave, *The Theory of Public Finance* (Macmillan).

G. J. Stigler, *Theory of Price* (Macmillan, 3rd ed.)

4. 経済学概論を履修済みとのこと。

5. 過去の在籍人員より多い申込みがあれば、適当と思われるレーショニングの方法を考える。

6. 財政学とは、どんな内容なのか、その一端を講義目次に掲げたので、参考にされたい。

助教授 漆崎 健治

教授 斎藤 要

#### 1 研究主題

商品の社会的価値を品質要素・価格要素・広告活動要素などに関連づけて追求する。

#### 2 指導要項

(イ) 全般 商品の品質と他の市場的属性とを、社会科学的な方式で統合するための基本的理論を修得する。

(ロ) 3年次 入門書的なテキストを講読し、基本的知識と応用能力を養う。

(ハ) 4年次 個人テーマによる文献講読と研究指導

#### 3 履修要件

1年度修了で36単位以上修得した者。

#### 4 使用テキスト

K. Marx: 資本論 第1分冊



飲島義郎等：品質基礎理論（1966）

L. Abbot: Quality and Competition (1965)

## 5 その他

無届欠席をしない者。

## 助教授 石原 定和

### 1 研究主題

貨幣理論、信用理論をへて擬制資本運動の研究にいたる。

### 2 指導要項

(イ) 全般 上記分野にかんする原書の講読、報告、討論をつうじて、基本的知識を習得し、さらに株式会社制度と金融資本の関連性を研究して、現代資本主義における証券市場の役割を考慮する。

(ロ) 3年次 初歩的な文献を精力的に読破してゆく。

(ハ) 4年次 前半は、証券市場にかんする専門的な知識の習得と、各自の興味のある分野への特化。

後半は、1年半の蓄積を基礎として、個別テーマによる卒論の作成指導。

### 3 履修要件

外国文献の講読に必要な語学力を要求する。なお、ゼミナールの出席率の芳しくない者にたいしては、担当教官がゼミ除籍の権利を有するものとする。

### 4 使用テキスト

(例) マルクス「資本論」

ヒルファディング「金融資本論」

レーニン「帝国主義論」

スィーギー「資本主義発展の理論」

Navin & Sears, The Rise of a Market for Industrial Securities, 1887—1902

Hedges, Commercial Banking and the Stock Market before 1863

助教授 鈴木 満直

教授 伊藤 森右衛門

助教授 篠崎 恒夫

### 1 研究主題

企業経営における経営管理および経営組織の批判的検討を主題とする。但し、各人が選定する卒業論文のテーマの範囲は、必ずしもこの枠内に限定されず、経営学本質論、生産管理論、労務管理論などに及ぶことが出来る。

### 2 指導要領

(イ) 全般 経営学の基本理論の学習を通じて、広く現代企業経営の諸問題を検討・批判する。

(ロ) 3年次 経営学の基本概念を方法論考究を通じて体系的に習得する。レポートと討議により「経済と経営」「経営と企業」「経営管理」「管理と組織」「組織的個人」の順に基礎概念を考究する（前半）。次に、近代管理論、特に意思決定論の解明のために原書の講読を行なう（後半）。なおテキストは下記参照。

(ハ) 4年次 個別テーマにもとづいて卒論作成指導を行なう。

### 3 履修要件

基礎履修科目として経済原論（近代経済学ならびに政治経済学）、経済学特殊問題、経営経済学を履修済みであること。

### 4 使用テキスト

稲葉 襄：経済学

March and Simon: Organizations 1958（なお本書講読のサブテキストとしては、バーナード「経営者の役割」、サイモン「経営行動」）

### 5 その他

(1) 真理に対する厳正な態度と情熱。

(2) 学問の共同研究における協調性が特に要求される。



助教授 久野光朗

1 研究主題

会計学——小生自身は会計原則構造論、簿記・会計発達史、貨幣価値変動会計、経営分析などの諸分野に関心を抱いています。

2 指導要項

- (イ) 全般 会計学に関する基本的知識を与え、かつ応用能力を養なう。
- (ロ) 3年次 わが国の「企業会計原則」の研究と外書講読を中心にして基礎理論を修得させる。
- (ハ) 4年次 卒業論文の指導——各人の発表をもとにして討論を行なう。  
なお、必要に応じて文献を紹介する。

3 履修要件

2年次に簿記学をはじめ語学の単位を取得できる者。

4 使用テキスト

3年次 Eldon S. Hendriksen, *Accounting Theory* (Homewood, Illinois, Richard D. Irwin, Ink., 1965), pp. 510.

5 その他

バイタリティにとんでおり、協調性のある者——熱心にゼミへ参加し、ゼミをもちたてていく人を望む。

教授 石河英夫

管理科学研究指導 I (経済)

教授 西川欽也

- (1) 4年次学生を対象に開講され、8単位が与えられる。
- (2) 卒業論文の指導に重点をおく。履修を希望する学生は、新学期の開講時までに指導教官と相談して、各自の研究テーマを決めておくことが望ましい。
- (3) 研究テーマは履修学生が自主的に決定するたてまえであるが、必ず指導教官と相談して、その承認を受けなければならない。
- (4) 研究テーマの選択範囲は、経済分析(予測・政策決定・計画などの応用

面を含む)への管理科学の応用ということで、かなり広い。その他必ずしも経済分析との関連を含まなくとも、統計理論など管理科学の関連領域からのテーマの選択は認められることがある。また統計数学もここでいう管理科学の中に入れて考えてよい。

- (5) この研究指導を履修できるのは、管理科学科所属学生のみであり、管理科学科の所定の科目を3年次までに必ず履修しておかねばならない。

管理科学研究指導 III

教授 古瀬大六

助教授 中川良延

- (1) 3年次生

テキスト: MAX RHEISTEIN, MAX WEBER on Law in Economy and Society. (Harvard)

本書は、マックス・ウェーバーの「経済と社会」(Wirtschaft and Gesellschaft)の第7章、「法社会学」(Rechtssoziologie)をラインスタイン教授が英訳(E. Shilsとの共訳)したものである。内容は非常に難解であるが、少しずつでもよいから厳密に読んで、法と経済および社会との関係という基本的な問題にアプローチして行きたいと思う。

- (2) 4年次生

「日本の家族制度」という主題のもとに、本年度も、下記のテキストを読みながら、理解を深めて行く。それと同時に、各人が卒業論文のテーマを選び、それに焦点を合わせた個別的指導もやりたい。

テキスト: 福島正夫著「日本資本主義と『家』制度」東大出版会

教授 桑原輝路